



## 毎日の管理作業を徹底し 乳量の向上を目指す

酪農経営 東合川 中島 康森 さん(31歳)・友美 さん(27歳)

### 牛が好きで就農

酪農家の祖父母と両親の背中を見て育った中島康森さん。物心ついた頃から牛を見て育ち、牛が好きだったことから、ごく自然に酪農の道を選びました。

高校を卒業後、北海道の酪農家での1年間の研修を経て、両親の元で就農しました。実際に作業を経験して、両親の苦労がわかったそうです。

### 認定農業者と経営規模拡大

平成22年には、父親との共同申請によって認定農業者となり、規模拡大等による経営改善に取り組みました。当時50頭だった乳牛を73頭まで増やすなど、現在、搾乳開始前の育成牛と合わせて121頭を飼育しています。

また、牛の飼育方法には、牛の体調に応じて、1頭ずつの「つなぎ飼」と、大きな囲いの中で複数頭を飼育する「フリー」の2種類の方法を併用している、県内でも数少ない酪農家です。

### 大変な作業だからこそやりがいがある

1年前に、生乳の出荷先でもある県酪農業協同組合に勤務していた友美さんと結婚し、現在は、両親と康森さん夫婦の4人で営農しています。

早朝5時半から夜9時頃まで、朝夕2回の搾乳や餌やり、牛舎の管理作業に追われる毎日。康森さん夫婦は、「外から見ていたのと違って、実際の作業は大変だが、乳量や繁殖で牛が結果を出してくれることにやりがいを感じている。」と語ってくれました。

これからも、毎日の管理作業を徹底し、更なる乳量向上を目指します。

